

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として、5項目の理念を掲げている。開設当初より事業所の理念としても掲げており現在に至っている。地域密着を意とする理念に関しては、法人及びスタッフと現在検討中である。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は入り口に掲示している。職員の採用時及び外来者(研修生、見学者等)へも説明をしている。ミーティング時は、理念の基に実践できているか、常に振り返り、スタッフ間の意識統一を図っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居されている本人や家族、町内会への出席、運営推進会などで、機会があれば理念の説明をすることにより理解してもらえよう掛けている。		
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	通勤時や外出時に近所の方に会った際は、こちらから笑顔で“あいさつ”、“声かけ”をするようスタッフの教育時に指導をしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内行事(定例会、夜間パトロール、防災訓練、花壇作りなど)への参加を積極的に行なっている。		勤務状況の都合もあり十分に交流が出来てないところもある。時間の許す限り今以上の交流を目指している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ご近所、町内会との関わりは、まだ十分とはいえない。現在、地域の中学校より福祉体験、職場体験、また、看護学生、その他研修生の実習を受け入れている。</p>		<p>日頃の業務より得た事が、町内会活動の中で活かされる機会が持てるようにしていきたい。</p>
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>スタッフ各々の介護経験や能力に合った関わりをしてもらい、一緒に話し合いながら作成したことで、その意義が浸透したと思われる。評価によりすぐに実施できた事、検討中の事と色々である。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>第2回目の会議は4月実施。町内会からは欠席(役員2人の都合上)。第3回目は12月に予定をしている。家族、町内会、地域包括支援センターからの出席を予定している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>今年の始めに勉強会の講師依頼をし、実施できた。</p>		<p>これからも勉強会も含めて、何らかの形で関わりが持続できるようにしていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度に関する勉強会を本年7月に取り上げた。前回(平成17年7月)より間隔があいていた為に再認識でき、勉強できたと思える。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>広い意味での虐待について学ぶ主旨の基、本年1月16日勉強会を開いた。スタッフの出席も多く、勉強になったと思われる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者及びご家族の気持ち、思い、疑問などを解決に向けて十分に説明をしている。慣れない生活の始まりで、不安が一杯の気持ちを理解し、質問、疑問に対して誠実に答える姿勢を心掛けている。</p>		<p>入居に対してのご家族の気持ちを大事にする姿勢を忘れないようにする。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>体調良好時の状態を十分に把握しておき、利用者の言動・行動によるサインを見逃さないようにしている。申し送り時にスタッフ全員へ報告し、周知してもらう</p>		<p>利用者から直接不満を聞いたり 意見を耳にする機会が少しづつ減ってきている現状となっている。相手の立場に立った心配りが必要である。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の面会時を利用し、最近の様子を必ず報告し安心していただいている。また、勤め帰りに見えらるご家族で“連絡ノート”を利用している。遠方にいらっしゃるご家族には、書類郵送時に利用者ご本人の手書きのものや写真等を同封している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会時には、何でも言っていただく人間関係や雰囲気作りに取り組んでいる。また、後日情報が入ってきた場合は早急に連絡を取り、十分に話を伺ってから解決策を講じている。そして、申し送りやミーティング時に報告し全員で周知している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の責任者会議において、スタッフの意見や提案を出し合う場として設けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在に至るまで時間勤務調整を必要とする事態は起こっていない。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>グループホームの職員については、なるべく固定化を図り顔なじみの職員によるケアを心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、2人の管理者(男女各1名)の協議によって決定しており、性別・年齢等の差別が無い様に配慮している。</p>	<p>宗教、思想に関わる差別や勧誘の防止などを目的としたガイドラインの作成。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>職員に対して入居者の人権を尊重させる教育の一環として、入居者についてのケースカンファを定期的に行なっている。この中で入居者の生活歴などを理解する事により、入居者をより尊敬、共感できるように心掛けさせている。また、今年は「高齢者虐待防止と権利擁護」について、の講習会を行なった。この間で身体的、精神的な虐待や拘束について図らせた。</p>	<p>高齢者の人権に関わる啓発資料(パンフレット)等の職員への配布。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>パートを含む全職員を対象に施設内の定期勉強会を毎月開催している。事業所外での講習会や研修に職員が積極的に参加できるよう参加費等の負担免除を行なっている。事業所外講習については資料等を掲示し職員が共有出来るよう心がけている。</p>	<p>他の事業所との学習会を企画開催する。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>昨年からの継続でグループホーム協議会へ参加し、企画、運営等に参画している。</p>	<p>他の事業所との合同研修会を企画する。 他のグループホームへの見学や相互研修を企画する。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常の中で職員の生活状況、ストレス、悩み職員同士の人間関係等の把握に努め、個別に話を聞く機会をなるべく設けて、事業所内での職員間の親睦が図れる場(親睦会、忘年会など)の機会を昨年より増やしている。また、職場環境の改善に努めて、より快適に働くためのハード面の補充(空調や食洗機の設置など)を行なった。さらに、診療所併設の利点を生かした職員に対する細やかな健康状態の把握及び迅速な医療的なサポートを行なっている。</p>	<p>労働条件の緩和及び福利厚生更なる充実。</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>昨年より積極的に職員の自主性に任せた企画を実施してもらい、秋祭りなどの企画を成功させている。また、定期勉強会については職員自らがテーマを決め運営している。これらの企画に対する発表者や参加者などについては、毎回運営者が把握し、プラス評価として職能評価として反映させている。また、介護福祉士や介護支援専門員などの資格所得を促し、介護職への志気が高められるよう掛けている。</p>	<p>職員が向上心を持って働けるような、職員の努力や成果を反映できる職能評価のシステム作り</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者の気持ちを思い、落ち着いて話せる環境を考えて、ひたすら傾聴する姿勢をとっている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前のご家族のホームへの訪問、後日再び来られての相談に対しては十分にお話しを聞けるよう、ゆったりとした気持ちで接するよう掛けている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、及びご家族が希望しているものが、その時点で適当であるかどうか判断をしたうえでグループホームに入居される必要があれば対応している。また、そうでない場合は別の支援方法を提案している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望があれば、入居前に体験利用をしていただき、職員や他の利用者ならびにホームの雰囲気になら馴染んでいただくよう、ご本人に合わせた柔軟な対応をしている。入居される当初は、ご家族に面会等の協力をいただいている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者のADLの低下に伴い、一緒に台所に立つことができなくなっている。座位でもできる作業をスタッフと一緒にこなす事でコミュニケーションの場としている。</p>	

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時は利用者の近況を伝えると共に、ご家族の様子を伺っている。ご家族も年々、体調不良を訴えられる方が多くなってきており、聞き役、相談相手にまわっている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	ご家族が面会される場合は、最初ご家族の方だけで十分に過ごしていただき、お茶をお出しする時に最近の様子を話したり、質問に答えたりしている。以前は、スタッフと一緒に手紙を書いてもらっていたが、最近は出来なくなってきた。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	友人やご家族との外出、外食の予定が決まるとその日に向けて入浴日や食事の予定を調整し、気持ちよく出かけていただくことを第一と心掛けております。季節により衣服に気を配り、利用者の希望があれば、軽く化粧もしていただいている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の個性や認知度の違いを把握した上でスタッフが間に入り、他者とのスムーズな関わりができるよう気をつけている。		お茶や食事の時間を一緒にとり、楽しい時間を過ごす事で各利用者間が穏やかで円滑な関係が持てるようにしている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了=死亡退居という形がほとんどです。後日、ご家族が外来受診などで来院された際は、近況などを伺うようにしている。又、終了後も近況知らせるハガキを頂いたりして、よい関係が続いていると思う		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の介護場面での声掛け、その返答、表情、態度などから推察している。それが困難な場合は、ご家族から情報を頂いている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>日々の会話の中から、直接利用者の口から聞ける事があるので忘れないよう書き留めている。また、ご家族や知人の面会時に少しずつ情報を頂く事ができる。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>各利用者の一日の生活リズムを理解したうえで、声掛け時の反応や僅かな動きからも体調や現状把握に努めている。</p>	<p>過剰な介護が利用者の意欲をそぎ、ADLの低下を招く事を十分理解していきたい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者からは意思疎通が困難な方があり、表情やしぐさなどで意向を探り、ご家族からは事前に意向を伺っている。カンファレンスを行い、ご本人の希望、ご家族の意見を伺い、利用者本人が生きがいを感じることで生活支援者としての介護計画の作成に努めている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月毎に見直しを行い、できなかったことに関しては他の支援方法が無いか検討している。また、状態の変化があった場合には速やかに見直しを行い介護計画を作成している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録にその日の状況などの記録を行なっています。また、特に注意すべき点や改善すべき点については、申し送り欄に記載しスタッフ間で情報の共有をすると共に介護計画の見直しに活用している。		日々の介護記録のやり方を見直し、スタッフミーティング時の検討課題とする予定。この実践によりよりよい介護計画の見直しに役立てたい。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事、入浴、睡眠などは各利用者に合わせて柔軟に対応している。ご家族との外出に関しても医療面と連携を取っている。また、面会時間に関しても柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今年も、近隣の中学生が福祉、職場体験で多数訪れ、利用者の方々と楽しい時間を過ごしている。又、町内行事や定例会への出席などを心掛けている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者及びご家族の希望により訪問理美容や訪問マッサージのサービスを利用いただいている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議へは、地域包括支援センターより出席いただいている。これからは、会議以外にも交流の機会を設けていきたい。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所1階にあるクリニックより医療の提供を受けている。その他の医療機関とも連携がとれており利用者、ご家族の希望があれば以前より利用されていた医療機関の受診も可能です。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業所 1階に専門医がおり、利用者やご家族、職員の相談にも気楽に応じてもらえ適切なアドバイスをしていただけます。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日頃から利用者の健康管理や医療的な場面で敏速な対応がとれている。また、看護職との関係もよく、その時にふさわしい適切なアドバイスも受けられる。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は時折面会に行き、医療スタッフより病状や経過についての情報を得ている。		事業所 1階からの治療が受けられる為、ここ数年他医療機関への受診はない。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「穏やかな死の援助」を理念としてあげている。事業所 1階にクリニックもあり、早い対応ができる点でご家族は安心されています。入居時、終末期の指針を定め話し合いがとられています。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所オープン当初より、ターミナルケアを実施しており、医療の連携が取れているため利用者、ご家族共に安心して最期を迎えられている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	それまでに知り得た情報が次のところで生かせるように十分な引継ぎを双方の関係者で行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>皆が集まるリビングの会話は気をつけている。スタッフ間で早く共有したい事項は、取り決めた内容で共有している。記録は人目に触れないようかかっている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自分の気持ちを上手く伝えられない方には簡単な言葉で伝えられるよう聞き方に配慮している。また、その時の表情や身体の動きなどでご本人のサインを見逃さないようにしている。</p>	<p>スタッフ自身の観察力が高まる様、ミーティングや情報の共有に力を入れたい</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の体調や前日の睡眠状態を頭に入れており不眠が続いた際は自然に目覚めるまでゆっくりと休んでもらっている。食事時間も時間をずらして食べていただいている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問美容が、第2火曜日、第4金曜日と月2回営業しており家族の希望、本人の希望等を聞き入れながら、カラー、カット、パーマ、顔剃りなどを受けられる。</p>	<p>毎日の生活の中で"らしさ"を保てるように、化粧をする時間を取りたいが、拒否が多くなってきている。</p>
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備が困難な為、片付け(エプロンたたみ、テーブル拭き)など手伝っていただいている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご家族よりお金を預かり月に1~2回買い物している。午前、午後のお茶の時間に提供し、楽しいひと時を過ごしてもらっている。</p>	<p>入居者と一緒に買い物機会をつくりたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握したうえで、今までの布パンツを利用したりはくパンツを使ったりと個人で変えている。スタッフで検討したムレが少ないパットを使用し、昼間はなるべく布パンツを着用することにより快適さを感じてもらおう工夫をしている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前日あたりから、体調等確認し、排便コントロールと重ならないように支援している。1日3名ほど入浴される。浴槽にも香りの入浴剤を使用し、香りからリラックスできるように支援している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室温、衣類、布団調節、乾燥していれば加湿器使用している。スタッフで検討し、機能の良いパットを利用することにより、夜間はゆっくりと十分休んでもらうようにしている。		排泄パッドは、日々改良されているため、またより快適に過ごしていただくためにも、いつも情報に耳を傾けたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割は決めていない。お元気な頃の作業は出来なくなってきているが、各々のレベルに合う関わりをしている。花が好きな方は、ベランダへ花を見に行き、花摘みをしたりする事で気分転換を図っている。また、食事を自分でとれる方は、洗濯物を干したりたたんだりする作業をスタッフと一緒にやり、役割を持っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金も認識できる方が少ないため、ご家族、又はスタッフが管理している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出される方は、数名で多くの方は、その機会が少ない状況である。少ない方は、体調をみてベランダや階下の庭へ散歩に出かけている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	事業所開設当時は、歩かれる方がほとんどでよくドライブに行っておりました。現在は外出される方が限られている状態です。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は電話をかけたリ手紙の一笔が出来ていたが、最近では全てにおいて、拒否される方が多くなっているのが現状である。		意欲向上に向けての関わりは、どうあればよいか日々思考し、検討中
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られる方の都合で訪問時間は自由として決めておりません。仕事帰りに来られて寝顔を見て安心して帰られている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束に関する会議を開いている。本人の体調により動きが変化してくるため、その変化やサインを見逃さないよう十分に気をつけて拘束へとならないよう努力している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は出て行こうとされる方はいらっしゃいません。"帰りたい"と言われるときには一緒に近くまで散歩、外出し落ち着いていただいています。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ間の声かけを十分に行っている。全員集まるリビングには、常にスタッフを1名配置して、危険な状態にならないよう気をつけている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミなどの使い方を間違えると危険となるものでも、スタッフが必ず同席して使用することとしている。使用後は紛失など無いように物品の確認を行い注意を払っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故に至る前の段階で、その事が予測できるようスタッフ間で情報を交換し事故防止につなげている。事故が起こった場合は、すみやかにヒヤリハットを記録、責任者への提出を履行し、スタッフ間で共有の認識を持ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応はマニュアルを作っている。昼夜共に医療スタッフとの連携が密にとられている。		救急救命への参加がスタッフ全員に行き渡るような体制をとりたいです。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に火災時の避難訓練を実施している。(今年は夜間想定)の避難訓練を行う町内の定例会への参加により、事業所の存在を認識してもらっている途中です。		平成20年11月30日に校区の防災訓練へ参加予定。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族の面会時に最近の様子をお話しているが、危険なことが予想される時は、医師より状況説明を行い理解を得られるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日ごろの表情や動き、食事摂取量、入浴時のバイタル測定などを行い異常の早期発見に努めている。発見時は速やかに他のスタッフへの情報伝達を行い、必要なときは1階のクリニックに連絡を入れている。		スタッフが日々の生活の中で「体調良」の状態を把握するよう指導し、その情報を共有している。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に添付されている情報用紙を参考にして服薬を行っている。服薬時は二重のチェックを行い誤薬防止に努めている。薬の内容に変更が生じた時は、医師、看護師により連絡が入るシステムとなっている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者の状態に応じた内容、形態、時間を考慮し提供している。身体を動かす機会が減っているため、車椅子、トイレ時、移乗の立位、歩行介助、入浴時の腹部マッサージを実施している。		水分(お茶、汁物)へのトコロシ、副食(キザミ食)へのトコロシ、野菜は少し温めて量を減らししんなりとさせる。また、豆類はつぶしてお湯でのばすなどを行っている。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、休息前に洗面所に行き、うがい、義歯洗浄、歯ブラシが使える方は、自分でやってもらう。無理な方にはスタッフが用具を使い口腔ケアを行っている。毎週、歯科衛生士より口腔ケア、チェックを行い指導を受け実施している。		スタッフの勉強会時、口腔ケアも取り上げている。歯科衛生士より利用者個々のケアのポイントを教えてもらい日々のケアに役立っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼力、嚥下力、義歯の有無、体力を考慮し、かゆ食、キザミ食、ミキサー食、トロミ付け食を摂っていただいている。体重減少による体力低下を防ぐために、高カロリー食を固形化して提供している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は、毎年実施(利用者、職員、希望される家族)手洗い、うがいの施行、消毒薬の使用、使い捨てのペーパータオルの使用で対応している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事作りは三食とも1階の厨房にお願いしており調理は行っていません。毎食後のふきんの交換、夜勤時流し台の洗浄と消毒を行っている。食器洗いは手洗いと食洗機を併用している。衛生管理の徹底を図るため、実施表を作成している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口にはマット、靴入れ、来客用スリッパ、椅子を置いている。常時緑の鉢物や季節を感じる花や鉢物を飾っている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入浴の際の入浴剤の使用、食堂での炊事風景、空気の換気、クリスマスツリーなどの季節ごとの催し物の飾りつけ等といった環境づくりを行っている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前にソファをおき、寝転んでTVやビデオ、音楽鑑賞をしていただいている。リビング中央に和室があり、そこでも寝転んだり出来る。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お元気な頃、または最近の写真を飾っている。ご家族と一緒に居室の飾り付けをして、楽しんだり昔の話を聞かせてもらったりする共有の時間が取れている。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	汚物は新聞紙、広告紙を使用して包み汚物入れに廃棄している。また、24時間の換気に関しては窓の開放を適宜に実施している。部屋の配置により温度差が発生する為、冷暖房や掛け物によって調節を図っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの床、手すり等設置していますが、一人で歩行される方がいらっしゃらないため利用されていません。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の居室、浴室、トイレなどの入り口には、ネームプレートをつけている。目線に合わせた配置にして、往来時に認識してもらっている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるよう活かしている	建物1階に木々や花々が植えてあります。2階はデイサービススペースとなっていますが、こども花壇や鉢植えに季節の植物を植えています。また、そこを車椅子で散歩し花を見たり野菜の成長を楽しんでいただいたりしています。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 楽居

項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方とスタッフがコミュニケーションをとり、利用者の方の意志を尊重し、日々安心して、生き生きと過ごすことの出来るよう介護を行っています。また、利用者の方とスタッフとの信頼関係を築き、利用者の方にとってよい介助を行うよう、日々心掛けています。